

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.26)

「賢者は決して危険に近寄らない」

・・・安全と弁当は手前持ち・・・

中東のイエメンで、地元部族民によって拉致されていた、国際協力機構(JICA)支援事業で滞在している技術者が、無事解放されたというニュースを見、心底から「ああ！よかったなあ」と思った。

職種は違うとはいえ、同機構関連の業務に従事している者として、他人事と思えない気持ちで、事の成り行きを見守っていたが、安堵の胸をなでおろしたと同時に、又日本人が誘拐された事件が起きたのかという、やるせない気持ちにもおそわれた。

3年ほど前には私と同じような、シニアボランティアが、強盗に襲われて死亡するという事件が、アジアで起きたときは、少なからぬショックを受けたものだ。

幸いにも私の例では、日頃から注意しているつもりなので、実害としては、人が大勢いる市場の中で集団スリに取り囲まれて、財布を盗られた約30年くらい前の例しかない。



先回の当地への派遣では徒歩で帰宅途中に、数人の若者の乗った不審な車にあとをつけられ(後日この車種と同じ車による、幾つかの強盗事件が報道されたのは偶然だろうか)、急いで自宅アパートに駆け込み、門番にドアを開けてもらい事なきを得たことや、通勤途上で4人の物貰いのグループに取り囲まれ、振り切って逃げた例はあるが、現時点まで大きな災難は降りかかっていない。

これらは通常の公共交通機関を利用した、通勤ルート上での出来事であり、時間差退社などの注意していても、今後とも起こりえると考えられる事象であり、油断はできないものだ。

ちなみに、先日開かれた、JICA 関係者による、「安全対策連絡協議会」の資料によると、メキシコでの邦人の被害は、主に窃盗、強盗被害で、2008年で75件、今年はインフルエンザの影響による一時帰国・外出手控えなどにより減少しているが、9月末現在で、39件となっている。

中南米の中では治安が悪いといわれている当地で、この数値が多いか少ないかの論議はこの便りでは、しないが、未届けの軽微なものも少なからずあると思う。

重大事件が起きると関係者の解決へむけた、努力は大変なものだと察するものの、それ以前にこのような努力をしないですむような世の中になって貰いたいものだが、現状を見ると絶対的に不可能な願望といわざるを得ないだろう。

織田、豊臣が全国政権を握っていた、安土桃山時代の大泥棒、石川五右衛門の辞世の句と言われている、「石川や 浜の真砂は 尽きるとも、世に盗人の 種は尽きまじ」を借りて、「盗人」を犯罪と書き換えれば(盗人の歌を盗んで使うとは、そちも悪よーのう！)、4世紀以上過ぎた現在の世界でも通じる歌で、この大泥棒様も天国(泥棒だから地獄?)で、「俺の言っていることは間違っていないであろう。は！は！は！」と快哉を叫んでいるに違いない？

今回のイエメンの事件で釈放された技術者の談話の中に、「また戻って最後まで仕事を完成させたい」という、如何にも日本人らしいコメントがあったが、多分私も万が一同種の事件に遭遇して解放されたら、同じよ

うなことを言うだろうと思う。しかし、安全だけは個人の頑張りだけでは解決できない面が多い。

今回のタイトルに使った、「**El sabio nunca corteja el peligro**」(エル サビオ ヌンカ コルテッハ エル ペリグロ と発音し、直訳はタイトルのようにであるが、君子危うきに近寄らずに相当するスペイン語の諺)という言葉がある。

私は単なる一ボラッチョであり、賢者でも君子でもないが、安全に関する注意の通達などがあると、そのときは大体においてそれを素直に守り、タイトルのようにどこにも出かけず、家で亀のように首を引っ込めて生活している。そうは言いつつも、折角メキシコにまで来ているのだから、何でも見てやろうという好奇心が強く沸き起こることがあり、心の葛藤が生じてくる。

いわば個人の安全にかかわる責任の所在の問題であるが、何年か前の海外で起きた、日本人が誘拐された事件で、邦人を護る立場の人が、その任務を放棄したような、「自己責任論」を述べたことがあったが、被害にあった例を見ると、すべてが自己責任に帰するものばかりだというものではない。

何か問題が起きると、「・・・に注意しろ」、「近づくな」、「目立つな」などという、自己を押し殺したようなネガティブな対策だけが強調されるが、もちろんそれは必要なのだが、もっと日本人のアイデンティティを堂々と出しても、安全だといえるような方策はないものだろうか。

自ら危険に遭遇することを望んでいる者は居ないだろうが、海外において生活している個人の立場は極めて弱く、自分を守るためには自分自身で対処せねばならず、スペイン語の単語で言うと、「**tención** (緊張)し、**atención** (注意)し、**desatención** (不注意)しない」の **3 tención** (私が勝手に命名したところの **3 テンセット**)を常に心がけている。

まさに、“安全と弁当は手前持ち”の状態、誰をも当てに出来ず、上記の3テンセットとタイトルの意を考えて、「用心を怠るな、目立つな、行動を予知されるな」などを日々守るにこしたことはない。

逆に言うと安全こそ国の豊かさを保証する尺度の一つだと、改めて考えさせられる。タイトルのようにして何もせずじっとして生活するのは、外国で広く見聞を広めよ、相手先を理解せよというなどの、目的のいくつかが遠のいてしまうことにもなり、ジレンマが講じて別の面のストレスも高まってしまう。

(2009年 12月03日、今週も昨日から大学での講義で外に出ていますが、安全について考えました)

「参考資料」

海外での援護件数・人数

(外務省・海外邦人援護統計より)

年	総件数	内容別件数			総人数	死亡者数	負傷者数	海外渡航者数
		強盗・窃盗・詐欺	遺失(旅券・財布等)	その他(事故・犯罪加害等)				
2008	16,364 件	5,229 件	2,813 件	8,322 件	18,098 人	615 人	600 人	15,987,250 人
前年比増減率	2.51%	-2.10%	-9.90%	10.95%	2.58%	12.43%	-1.64%	-7.56%

(注)死亡者数、負傷者数には、犯罪被害によるもののほか、事故や疾病によるもの、自殺等が含まれる